



## 【行く年、来る年 ~十二支について~】

さて問題です。来年は十二支で言うと何年でしょうか？次の①~⑤から1つ選んでください。

- ①亥 (イノシシ)    ②戌 (イヌ)    ③申 (サル)    ④酉 (ニワトリ)    ⑤未 (ヒツジ)

正解は「⑤未 (ヒツジ)」です。子 (ネズミ)→丑 (ウシ)→寅 (トラ)→卯 (ウサギ)→辰 (リュウ)→巳 (ヘビ)→午 (ウマ)→未 (ヒツジ)→申 (サル)→酉 (ニワトリ)→戌 (イヌ)→亥 (イノシシ)の順に年が替わっていき、また子 (ネズミ)に戻っていく。このように一年一年を動物に置き換えて表すやり方を十二支と言います。

さらに十干 (甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸) と言うものがあります。これと十二支を組み合わせた暦法が十干十二支 (干支) です。干支は60年で一巡し、また元へ戻るので、60歳を迎えた人を還暦 (暦が還る) として祝うようになったのです。

干支は大昔の中国で生まれました。日本列島では5世紀頃から年を表すのに干支を用いたことが、埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣銘の「辛亥年」や和歌山県隅田八幡神社の人物画像鏡銘の「癸未年」などの考古学資料から明らかになっています。干支はしだいに広まり、江戸時代には人々の生活の隅々にまで入り込んでいきました。

ところで、十二支の動物たちは、もともと日本列島にいたのでしょうか？十二支のうち神話上の動物である辰 (リュウ)を除くと、丑 (ウシ)、寅 (トラ)、午 (ウマ)、未 (ヒツジ)、酉 (ニワトリ) はいなかったようです。まだ今月中は午年ですが、馬はいつから日本にいたのでしょうか？3世紀末に成立した中国の歴史書『魏志』倭人伝には、馬はいなかったと記されています。馬具の出土状況から判断して、馬の出現は4世紀後半からだと考えられています。馬の飼育が本格的になるのは5世紀中頃で、この頃に造られた古墳からは馬具がたくさん見つかるのと同時に馬形埴輪が置かれるようになりました。

松阪市内で見つかった馬形埴輪は、常光坊谷4号墳のものが有名です。これは、背中に鞍をのせ轡や杏葉などの金具を着けた「飾り馬」でした。たくさんの金具で飾り立てた馬は、古墳に葬られた人物の権力を象徴する動物であったと考えられます。なお、常光坊谷4号墳から出土した馬形埴輪の「太郎」と「花子」は、現在にはにわ館受付前に飾ってあります。午年も残りあとわずか、「太郎」や「花子」に会いに、はにわ館へいらっしゃってはいかがでしょうか。(担当)



## 【けやけき木…………】

鈴の森公園の三本のケヤキはまるで公園の主のようなオーラを放っている。冬の姿は気高く、冷え冷えとする外気にめげず、屹立している。そして、葉を落とした筈立ちの枝ぶりは見るものに強い印象を与えてやまない。

ケヤキの名は「けやけき木」からきているという。「けや」とは際立って目立つ、美しいという意味があり、古くから一目おかれてきた。大きく生長したケヤキであれば、なおさらだろう。全てのものに「カミ」が宿るとする私たちの文化の中にあっては、私たちは山や野の草木にも精霊の存在を感じ、さらに、大きな木には特別な思いを持っている。



12月の市民ギャラリーは市民の皆さんの写真や絵画の展覧、児童生徒の作品展などがあります。「こどもハニワ展」は保幼小のこどもたちの創作ハニワの展覧です。はにわ館は船形埴輪を中心とした常設展示です。ご来館をお待ちしています。(所長)

## 文化財センター はにわ館 & ギャラリー 12月の催し物予定

12月の休館日は1日(月)、8日(月)、15日(月)、22日(月)、24日(水)、28日(日)~31日(水)です。  
開館時間は9:00~17:00です。

【はにわ館】 入館料 100円 (18歳以下無料) \* 入館は 16:30 まで

第1展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」

【ギャラリー】 入場無料

第1G ■ふるさとスケッチ「風の会」展

12/4(木)~7(日) \* 最終日は 16:00 まで

第2G ■第7回 こどもハニワ展

12/6(土)~13(土) \* 10:00~16:00 \* 最終日は 12:00 まで

第3G ■嬉野フォトクラブ写真展

12/9(火)~14(日) \* 最終日は 16:00 まで

第1G ■第51回 梅美展

12/12(金)~14(日) \* 10:00~ \* 最終日は 15:30 まで

第1G ■エチオピア・101の顔 ~墨絵で描く人々の暮らしと心~

12/19(金)~23(火) \* 最終日は 16:00 まで

第2・3G ■「景観絵画展」~まつさかの風景画~

12/20(土)~21(日) \* 16:00 まで \* 最終日は 15:00 まで